

“卒業するということ”

第 15 期生 市川 哲也

卒業するということは、小野ゼミに入会し、小野ゼミでの 2 年間で過ごし、小野ゼミを修了する、ということである。これは言い換えれば、過去に小野ゼミに入会するという選択を行い、その選択の下で行動し、今現在その選択による成果を自分なりに評価することといえるだろう。

選択の評価は、おそらく様々な観点から評価することができる。ここで、私が尊敬する人が言っていた、「人が人生を豊かにするために必要なものが 3 つある。それは、お金・時間・人である。」という言葉がある。お金が無いとやりたいと思っただけでできないし、時間が無いとお金があってもやりたいと思っただけでできない。人、すなわち人脈が無いと、お金と時間があっても、やりたいことができる範囲に限界が生じる、ということである。私の行動原理であるこの言葉を基にして、お金・時間・人という観点で小野ゼミに入会するという選択を評価してみよう。

お金という観点で言えば、小野ゼミは素晴らしく非効率な選択をしたと言えるであろう。バイトをする時間は 3 年時には週 1 回のみとなり、収入も少ないまま支出は印刷代や飲み会代で嵩むばかりである。しかしながら、それは本当に非効率であっただろうか。小野ゼミに入ったことによって、お金を稼ぐ基礎が築き上げられた。お金を稼ぐにあたり必要なことが何なのか、その一部が身をもって分かったように思う。

時間という観点で言えば、小野ゼミは素晴らしく非効率な選択をしたと言えるであろう。小野ゼミでは結論の出ない内容について愚直に長時間議論し続けたり、とても小さく見える書式のミスについて何度も修正を繰り返したりした。しかしながら、それは本当に非効率であっただろうか。小野ゼミに入ったことによって、時間をかけるべきところと時間をかけるべきでないところの違いが分かった。基本的なことを基本的に行い、その上で少し工夫を凝らすことで、時間を捻出することができるということが分かった。

人という観点で言えば、小野ゼミは素晴らしい選択をしたと言えるであろう。小野ゼミは小野先生をはじめとして、大学院生、OB・OG の方々、14 期生・16 期生の方々など、たくさんの素晴らしい方々との出会いの場であった。そしてそれは出会いのみならず、親交を深める場であった。またその中で、師弟関係、先輩・後輩関係、そして同期との関係の保ち方を学んだ。

以上のように考えると、小野ゼミに入会するという選択は、自分の行動原理に則った、正しいものであり、その選択を評価するならば素晴らしいものであったと言える。その意味で、私は小野ゼミを卒業することができる、改めて思う。とはいうものの、冒頭に述べた、選択を評価することと卒業することというのは、実際には全く異なるものである。そこで、まずは小野ゼミを無事に卒業することを祈って、筆をおくことにいたします。